

所信

創立50周年特別会議

議長 鬼木 亜加子

<プロローグ>

今をさかのぼる事66年前、わが日本国は大東亜戦争に敗戦し、誰もが絶望の淵に立たされる悲惨な状況を迎えました。しかし、その後の先人たちの血の滲むような努力により復興を成し遂げ、経済力にいたっては爆発的な成長を遂げることが出来ました。結果、今日の我われの生活は豊かになり、物の無い時代から物が溢れる時代へと変化しましたが、それに伴いひとの考え方やあり方も変化しつつある気がしてなりません。物の無い時代は、人々の生活が豊かになるために誰もが知恵をしばり、額に汗をして一心不乱に日本の復興に向け取り組みました。しかし生活が豊かになるにつれ、物の豊かさに甘える者、他力本願や事なかれ主義で生活している者など、勤勉でおもいやり溢れる誇り高い日本の心を残したい一心で、献身した先人たちの意思とは違う方向へ進んでいるように感じます。この国を今より豊かで平和な国にし、50年、100年先に渡って残していくために今一度「より良いまちは、より良いひとが創る」という青年会議所の原点を見つめ直す必要があると考えます。

<先人への感謝>

我われが活動している社団法人海部津島青年会議所が、この地に産声を上げて本年で50年目を迎えます。現役メンバーがこの世に生まれる前から、この地域をより良いまちにするべく青年会議所を創立し、社団法人格の取得や広域運動を視野に入れた名称変更などの活動を展開してこられた先輩諸兄の苦労は、ただならぬものであったと思います。これは、すべて「縁」の積み重ねの上に成り立ってきた事であると考えます。「縁」とはすなわち人や物事との繋がりやきっかけを意味します。当青年会議所が現在のような成長を遂げることができた過程には、様々なご縁で繋がった地域の人々や各行政・各諸団体・先輩諸兄のお力があつたからこそです。後世により良いまちを残したいという純真無垢な志を引継ぎ、活動や運動を振り返り、学びを得ると共に、海部津島地域で50年間続く唯一無二のまちづくり団体としての今後の方向性を指し示してまいります。そして、これまでの運動にご協力して頂いた様々な方々に改めて心からの感謝と敬意を表し、今後も協力しあえる関係を保てるよう礼を尽くしてまいります。

ENISHIを重ねて ～ つむげ！未来への絆 ～

<夢と希望、そして笑顔溢れるまちへ>

平成23年3月11日。近代日本に未曾有の大震災が発生しました。多くの死者・行方不明者を出し、夢も希望もまとめて津波に飲み込まれてしまいました。しかし、日本人が古より持っている美しき精神性によって地域の秩序は保たれ、国民の団結力をもって素早い復旧・復興開始の扉が開かれました。いつ自分たちの身に降りかかるとも知れない自然災害や、長期に渡る景気の低迷など、様々な不安を抱え現代を生きる私たちにとって、この出来事は大きな教訓として深く心に刻まれました。

地域住民が夢と希望に満ち溢れ、笑顔が絶えることのないまちにしていく為には、この地域に近い将来起こりうる大震災に向けての準備や心構えなど、より良いまちづくりが使命の我われ青年会議所

が行なわなければならない課題は山積しています。今回の大震災での教訓を活かし、一人でも多くの命を守るという意識のもと、おもいやり溢れる事業を展開してまいります。

また、地域経済の復興も我われ青年会議所には急務です。90年代初めにバブル経済が終わりをつげ、それでも歯を食いしばり生き抜いてきた私たちに今度は100年に一度と言われる世界的大恐慌が訪れました。しかし、私たち親世代が不景気により、暗い顔をしていては子どもたちが明るく育つはずも、そして明るい豊かな社会の実現ありません。地域の方が夢と希望に満ち溢れ、笑顔が絶えることのないまちにしていく為に、生業に誇りを持ち、今一度発起し、不撓不屈の精神で立ち向かっていく必要があると考えます。自らの地域は自らの手で守り発展させていくという意識を育み、生き生きと前向きな気持ちで暮らせる地域の礎を築いてまいります。

「子は親の背中を見て育つ」といわれていますが、「親は子どもの笑顔から勇気をもらう」というのも事実です。子どもたちの笑顔はどんな宝石よりも美しく、かけがえの無い物だと思います。子どもは感性が豊かで行動の中から物事を感じ取る才能に長けています。このまちをいつまでも愛し続け、子から孫へ、そしてそのまた子へと語り継がれる美しき海部津島を感じて頂きます。

そして、この海部津島地域という「縁」で繋がった様々なひとが、共に手を携え関わりあうことで強い絆を生み出し、まだ見ぬ未来を明るく照らす光となってこの地域を導いてまいります。

<光輝く未来へ>

歴史ある輝かしい活動の中で、我われ社団法人海部津島青年会議所は創立以来幾多の岐路に立たされてきました。しかし、その度にメンバー一人ひとりの英知と勇気と情熱が、一つの羅針盤となって新たな道を切り拓いてきました。いまこそ変革の能動者たらんとする勇気、混沌を未知の可能性と捉えるような意欲的な発想、そして、海部津島地域をオンリーワンのまちにするという情熱が、我われには必要なのではないのでしょうか。この三つの力が源となり、どのような立場におかれても、それを「縁」と前向きに捉えメンバー一人ひとりが責任感とやりがいを感じながら楽しく生き生きと活動できると考えます。そうした誠実で活力あふれる青年会議所の存在こそが地域の御柱となり、明るい豊かな社会を実現できる力強い一歩となるのです。今までの歴史を振り返り学ぶ中で、現状に満足することなく、今後の社団法人海部津島青年会議所のあるべき姿をメンバーと共に探究してまいります。そして、メンバー自らが羅針盤となり自信と誇りをもって、先輩諸兄や現役メンバーの想いをつむぎ、我われの気高き志を次代へと継承してまいります。

<エピローグ>

当青年会議所の50年というこの大きな節目の年に関わる事が出来た「縁」を大切に思い、今こそ地に足をつけながら心に夢を抱き、誠実な想いで未来を切り拓いていかなければなりません。我われはJAYCEEです。胸に輝くバッジに自信と誇りを持って明るい豊かな社会の実現に向け共に歩んでいきましょう。